

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市児童生徒肥満対策運営委員会
事務局 (担当課)		学校保健課 電話 0 4 2 - 8 5 1 - 3 1 0 6 (直通)
開催日時		令和 2 年 1 月 2 3 日 (木) 1 5 時 0 0 分 ~ 1 6 時 3 0 分
開催場所		けやき会館 3 階 第 1 中会議室
出席者	委員	1 0 人 (別紙のとおり)
	その他	0 人
	事務局	3 人 (峰岸担当課長、佐藤主任、岡崎主事)
会議次第		<p>1 出席者の自己紹介</p> <p>2 委員長・副委員長選出</p> <p>3 あいさつ (委員長、副委員長)</p> <p>4 議題</p> <p>(1) 令和元年度肥満対策事業結果について</p> <p>ア 肥満検診</p> <p>イ 栄養指導</p> <p>ウ 肥満精密検診</p> <p>エ 栄養指導実施報告</p> <p>(2) 令和元年度尿糖陽性者精密検診結果について</p> <p>(3) 令和 2 年度以降の肥満対策事業の変更について (案)</p> <p>ア 対象者の変更</p> <p>イ 成長曲線活用事業との連携について</p> <p>ウ 肥満検診及び食事生活相談の受付方法の変更について</p>

相模原市児童生徒肥満対策運営委員会委員出欠席名簿

	氏 名	選 出 区 分	備 考	出欠席
1	大山 宜秀	相模原市医師会 学校医		出席
2	青山 宏太	相模原市医師会 学校医		欠席
3	永井 完侍	相模原市医師会 学校医		欠席
4	山口 雅之	相模原市医師会 学校医		欠席
5	富川 盛光	相模原市医師会 学校保健担当理事	委員長	出席
6	政木 尚美	相模原市栄養士会		出席
7	立原 裕作	相模原市立小中学校 P T A 連絡協議会		出席
8	鈴木 由巳	小学校校長会		出席
9	井上 武仁	中学校校長会	副委員長	出席
10	柳澤 ひとみ	学校保健会養護教諭部会（小学校）		出席
11	鈴木 芳子	学校保健会養護教諭部会（中学校）		出席
12	高橋 はるみ	小学校栄養研究部会		出席
13	原田 道宏	学校保健課長		出席

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

原田学校保健課長からあいさつの後、次第に沿って進行した。

「相模原市児童生徒肥満対策運営委員会設置要綱第4条2項」に基づき、委員長は富川委員、副委員長は井上委員が選出された。

富川委員長により以後の議事が進められた。

【議 題】

(1) 令和元年度肥満対策事業結果について

ア～ウについては事務局より、エについては相模原市栄養士会の政木委員より実施報告を行った。

< 質疑応答及び委員の意見 >

○栄養相談は個別で行なっているのか。

○集団指導を行なった後、家庭に合わせてお話ができるよう個別指導を行なっている。保護者と児童生徒の両者に聞いてもらうことで理解を深めてもらっている。

○医師会が作成する年次報告には、コレステロール、血糖値、HDL コレステロール等の検査値のデータがある。そのデータをぜひ学校現場で見たい。軽度肥満であっても、検査値の異常があるということもわかる。教育委員会で作成する肥満対策事業結果にそのデータを反映させていただくことで、学校現場での理解がより深まるのではないか。

○数字を見ると受診させた方がいいとわかるが、思春期で敏感なため、通知の渡し方に苦労している。一斉に渡すことができないため担任からこっそり渡してもらい、内容を見ずに家に持ち帰るよう伝えている状況であるが、家庭に持ち帰っているかどうかもわからない状況である。柔道部等の部活動によっては鍛えている生徒もいるため、数字のみで判断してお渡しするのも難しい。夏休み前の面談時に、担任から保護者と児童生徒に対して説明しながら通知を渡すのが一番効果的だが、時期を考えるとできない状況である。デリケートな内容であるため、受診率が増えるようにとのことだが、現実には難しい状況である。

○早期に発見し、改善することが大切である。そのため、肥満検診の案内をすることで、医療機関で診てもらうきっかけを与えるととても効果がある。ただ、学校側が言うように、通知をする方法はもう少し検討していく必要はあると思う。

○年間を通して肥満対策事業があれば、受診時期の選択肢が増えるため、受診率を上げることができるかもしれない。

○保護者が食事バランスを理解していないというところについて、指導が必要だとい

うことがよくわかった。

○現状では、対象者のみ肥満対策事業の通知が送付されている。市の広報に肥満対策事業の案内を載せることで広く周知するという方法もあるのではないかと。

(2) 令和元年度尿糖陽性者精密検診結果について

事務局より実施報告を行った。

< 質疑応答及び委員の意見 >

○尿糖陽性者検診については、毎年2、3名の糖尿病の発見ができており、確実に診断ができています。肥満精密検診においては、年間1名程の糖尿病に結びつくような方を発見している。尿糖陽性者検診と肥満精密検診のそれぞれで発見される糖尿病の方は被らないためそれぞれが大切な事業だといえる。

(3) 令和2年度以降の肥満対策事業の変更について(案)

事務局より説明を行った。

< 結果 >

事務局案で承認。

< 質疑応答及び委員の意見 >

○専門医療機関でも栄養士がない場合がある。肥満度50%以上の方も栄養指導をしてもらえるのか。

肥満度50%以上の方は、受診時に肥満検診票を持参していただき、必要があれば検診票内の指導内容「メディカルセンターによる栄養相談の実施」を選択していただくことで秋の栄養相談のご案内ができる。

○コールセンターによる受付とのことだが、Webによる申し込みやアプリケーションがあれば時代に即した方法かと考える。

○コールセンターの開設時期はいつか。

5月頭～6月末の期間で検討している。検診期間を夏休みにするためには、この時期の受付となる。

○コールセンターでの受付は便宜的かと思うが、受診率の底上げをしていただきたい。そのためにも担任や養護が積極的にアプローチをしていただきたい。

○保護者の立場としては、学校に申し込むよりコールセンターに電話する方が申し込みやすいという考えと、学校へ申し込む方が気軽に申し込めるという考え方がある。

○子どもたちの健康を一番に考えていくためには、コールセンターでの申込を実施し

てみて、受診者数が減ってしまうのなら見直す必要があると思う。

○児童生徒全員に成績表という形で検診結果（学校からの通知）を渡すのはどうだろうか。現在は、対象者に個別に通知を渡していると思うが、全員に成績表のように渡し、油断すると事業の対象になると周知することで意識が変わってくるかと思う。

○全員に通知するとなると、現場が大変かもしれないが、ミスは許されないため気を付けてほしい。

○成績表ではないが、健康手帳を渡している。健康手帳を渡すときに、一言添えるというのもいいかもしれない。

以 上